

【開催主旨】

第4回木曾川上流水防災協議会（愛知ブロック）を開催し、「洪水ハザードマップの周知徹底」について再確認するとともに、改正水防法に基づく法定協議会への改組や、沿川の自治体や県、国等が連携・協力して、減災のための目標を共有し、ハード・ソフト対策を一体的かつ計画的に推進するための取組方針のフォローアップを実施しました。

また、意見交換において一宮市長、江南市長、稲沢市長、犬山市副市長より取組事例についてご紹介いただきました。

【開催概要】

開催日：平成30年7月17日（火）

会場：一宮地場産業ファッションデザインセンター 1階 展示ホール

出席者：一宮市長、江南市長、稲沢市長、犬山市、愛知県一宮建設事務所長、名古屋地方気象台長、（独）水資源機構中部支社事業部長、丸山ダム管理所長、木曾川下流河川事務所、木曾川上流河川事務所長

【以下新規委員】

名古屋市、小牧市、岩倉市、清須市、北名古屋市、あま市、大口町、大治町、愛知県尾張水害予防組合管理者、愛知県建設部、愛知県防災局、愛知県尾張建設事務所、愛知県海部建設事務所、新丸山ダム工事事務所長

議 事：1) 水防法改正に伴う法定協議会への移行について

2) 木曾川上流水防災協議会における取組みのフォローアップ等について

3) 意見交換

①平成30年7月豪雨に伴う木曾川水系の出水状況について

②取組事例の紹介

一宮市 中野市長、江南市 澤田市長、稲沢市 加藤市長、犬山市 小澤副市長



【協議会スケジュール】

○第1回協議会 ※協議会立ち上げ

・岐阜ブロック（平成28年5月12日）、愛知ブロック（平成28年7月5日）

○第2回協議会 ※取組方針の策定

・岐阜・愛知ブロック合同開催（平成28年8月29日）

○第3回協議会 ※水防法改正に伴う今後の展開、取組のフォローアップ、意見交換等

・岐阜ブロック（平成29年5月11日）、愛知ブロック（平成29年8月10日）

○第4回協議会 ※水防法改正に伴う法定協議会への移行、取組のフォローアップ、意見交換等

・岐阜ブロック（平成30年5月10日）、愛知ブロック（平成30年7月17日）

第4回木曾川上流水防災協議会
（愛知ブロック）の開催状況

【中野一宮市長】



- ・一宮市では、小学校・中学校などの「学校」や「自治会」等に対する水害教育の充実を図っており、現在、浸水体験VR（バーチャル・リアリティ）動画を作成中である。これは、ゴーグルをつけると、あたかも身の周りでどんどん水位が上昇してくるのを実感できる動画となっている。
- ・8月末に実施予定の一宮市総合防災訓練の会場で、市民の皆様はこの浸水体験VR動画を体験してもらい、「浸水の速さや、早めの避難が必要なこと」を実感してもらえよう、現在準備を進めている。
- ・また、平成28年度の総務省のモデル事業として愛知県が新しく開発した「市町村防災支援システム」の活用を進めている。
- ・当該システムはメールや市のホームページ、SNS等で災害情報を一括で発信することができ、例えば、気象庁のデータを基にした洪水危険度の予測や、基準を超える雨量が想定される時には、警告表示が出るなど避難情報発表の迅速化につながり、災害業務の効率化にもつながると期待している。

【澤田江南市長】



- ・江南市では水防対策として、台風の接近、上陸に伴う木曾川やその他河川ごとにおける洪水に備え、避難勧告等の発令基準や洪水ハザードマップの作成、集中豪雨による道路冠水箇所のリスト化及び職員への周知などにより、迅速に対応できるように取り組んでいる。また、主な道路冠水箇所においては、市職員の外、地元警察署及び水防団の連携・協力により、現地調査等を実施し、市民の安心・安全確保に努めている。
- ・最大規模の浸水想定では、市内全域の浸水が想定されるものの、現在指定している指定緊急避難所が最大想定 of 洪水に対応していないため、市民や要配慮者の方の垂直避難などの屋内安全確保行動及び洪水予想等の収集方法の周知、洪水用避難場所や洪水から一時的に身を守るための場所の指定等が必要となる。
- ・これらの対応策として、市のホームページにおける気象庁等による気象情報の紹介、防災教育の一環としての出前講座、子供防災教室の開催など、防災・水防災意識の応用につながる啓発活動に取り組んでいる。

【加藤稲沢市長】



- ・稲沢市では平成26年度より、次代を担う小中学生の防災減災意識を高めるとともに、地域の特性や課題を理解しながら実践的な知識を身につけることを目的に、小中学校を対象とした「防災教育実践指定校委託業務」を実施している。
- ・平成28年・29年度は、平成12年の東海豪雨で被害を受けた「下津小学校」と「千代田小・中・坂田小学校合同」で実施。
- ・千代田中学校では避難訓練を3回実施し（内1回は消防署の指導もあり）、訓練後の消防士の方の講話における「訓練は本番の様に真剣に取り組み、本番は訓練の様に冷静に行動する」という言葉が、特に生徒の印象に残ったと聞いている。
- ・千代田小学校と坂田小学校では、地震発生後にどんなことが起きるかをゲームを通じて学べる「防災すごろく」を実施した。児童達は様々な困難を協力しながら解決し、「災害が起きても皆で協力して避難や救助をしたい」との感想を聞いている。
- ・下津小学校では、防災ボランティアの協力により5年生を対象に、ダンボール製の組み立てトイレの組み立て、毛布を使った簡易担架・エアマットの使用や、新聞紙を使った防寒対策など、避難所での生活の疑似体験を行った。
- ・これらの事業により、防災・減災に考えをめぐらせることができる大人になれるよう、今後も防災教育を推進していきたい。